

道央3日弾丸旅行記

ふちんかん

9月22日早朝から24日深夜までの2泊3日で北海道に弾丸旅行してきた。

出発

朝6時関空発のジェットスター便に乗る。関空までは自宅から車で行ったのだが、関空の駐車場が秋の連休中のため満車との情報があったため手前のりんくうタウンのコインパーキングに車を止め、南海の始発に乗って、ギリギリ間に合うというドタバタ接続。結果的に安上がりにはなったのだが、3時半に家を出るハメになった。

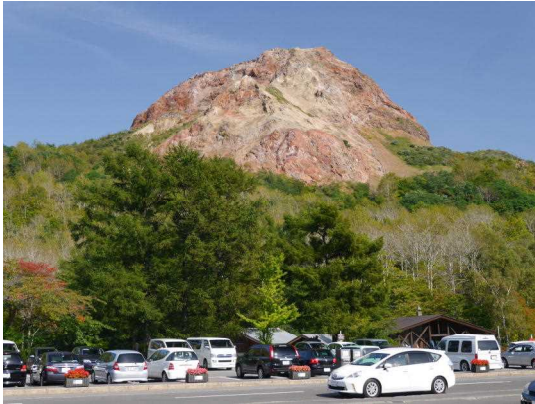


レンタカー

事前に予約していたオリックスレンタカー。空港についてからの手筈が何も記載されておらず困惑した。自分でカウンターを探して営業所行きのバスに乗って、ようやく借りることができた。幸いなことに新型フィットのハイブリッドタイプを借りることができた。この車は燃費がいい上に小回りが効く良い車である。



道央3日弾丸旅行記



昭和新山

最初の訪問地は昭和新山。有珠山の山麓が昭和18年から隆起してできた火山で鐘状火山として有名。

山肌の色が噴火ごとに異なっている。

昼食後、有珠山ロープウェイに乗って、昭和新山を俯瞰した。

下山後、隆起の記録と周辺の保全に尽力した三松正夫さんの記念館とアイヌ資料館を見学した。

金比羅火口遺構散策路

洞爺湖の湖畔南側にある平成12年の山麓噴火の遺構。写真は噴火口の一つ「有くん火口」、近くには「珠ちゃん火口」もあり、合わせて有珠となるネーミング。熱泥流が流れた跡が残っており、流されてきた橋梁やそれがぶつかって破壊された団地など、火山噴火のすさまじさを実感できる。



←熱泥流で流されてきた橋梁がぶつかった団地。1階に見えるが、本当の1階は泥流で埋まっている。つまり橋梁は2階にぶつかったということ。橋梁はこのあと20mくらい流されて止まっている。

洞爺湖ビジターセンター

・火山資料館→



☆☆☆☆ 30周年記念原稿 ☆☆☆☆



西山山麓火口散策路

さきの金比羅火口遺構散策路より少し山あいにあるが、同じく山麓噴火の爪痕である。県道が階段状に変形していたり、飛んできた噴石で穴だらけになった幼稚園や屋根が崩れたお菓子工場、地上に飛び出した暗渠など、噴火に伴う地殻変動の激しさがよく分かる。



洞爺湖サイロ展望台

2つの散策路を歩いているうちに夕方が迫ってきた。1日目の最後として、夕陽で順光になることを狙い、洞爺湖の西にある展望台へ。落日前には到着できたが、湖面は影に入っていた。

1日目の宿 苫小牧の民宿へ

高速道路を飛ばして苫小牧へ。

ちなみに高速料金は3日間定額 7900円の「北海道ETC 夏トクふりーぱす」を事前に申し込んでいた。

宿は苫小牧東港近くの「翔馬館」。素泊まり 3500円なり。安いのに清潔で十分なサービスと気遣いを感じる良い木賃宿である。



道央3日弾丸旅行記

2日目の朝・勇払

朝5時に宿を出た。あたりは霧でおおわれている。勇払マリーナ近くで朝日に輝く砂浜を撮影。



汽笛が聞こえて近くに線路が走っていたことに気づく。急に鉄分が満ちてきて次の列車の撮影をしたが、左のような朝霧はすぐに消えてしまった。

富良野・美瑛へ

高速に乗って、道東道を占冠まで。占冠駅に立ち寄って休憩。どうも見覚えがある駅前だと思ったら、30年前に一人で自動車鉄道写真撮影旅行したときに野宿した駅だったことを思い出す。

根室本線の列車撮影するなどしつつ、富良野へ向かう。



富良野

なだらかな丘が続く。タマネギの収穫シーズンらしく、うす茶色の土地に掘り出されたタマネギが整列している。



☆☆☆☆ 30周年記念原稿 ☆☆☆☆



富良野ジャム園・麓郷展望台

高台にある麓郷展望台は、西にひろがる富良野やその先にある富良野岳、芦別岳が一望できる。さわやかな展望台である。

写真はハマナスの実。サンプルとして植えられている植物のジャムを禁のショップで購入できる。



大雪山・旭岳

中富良野でサガリ（横隔膜）の焼き肉でランチ。その後、旭岳ロープウェイに飛び乗って、旭岳の散策へ。紅葉が美しい。



←姿見の池

11年前の6月に家族旅行で来たときは雪の中だったが、今回はピーカンの空の下、旭岳がちゃんと映っている。



散策路は噴煙口や火口跡の池をめぐるようになっている。

富良野に戻り、宿泊は「列車 House」という名の安ペンションへ。以前は列車も利用していたらしい。



道央3日弾丸旅行記



3日目の朝・美瑛・白金へ

6時に宿を出て、富良野線西中駅で「鉄」。
単行列車専用の簡素なホームである。



← 30年前撮影旅行では、この西中駅付近で
撮影していた。(OH!WOO!!掲載後に追記)



白金へ向かう途中

朝日が昇り徐々に霧が晴れていく。
何気ない風景なのだが、タイミング
次第で写真は変化する。



白金・青い池

名前の通り青い色に見える池。同じ北海道のオンネトーや福島県磐梯山の五色沼など温泉地帯ではたまに見かける光景だが、ここは泥流対策のため人工的に作った堰堤に川の水が貯まってできたというのが特徴。

このあと、美瑛の丘を一巡後、旭川へ出て、道央道で一気に登別へ。



☆☆☆☆ 30周年記念原稿 ☆☆☆☆



登別・大湯沼

登別温泉を通過し、山なかへ。狭い道を抜けると視界が広まったと同時に熱気を感じる。ごうごうと音を立てて噴煙を上げる日和山のもとに、硫黄臭の熱気がただよう大湯沼がある。



登別・地獄谷

温泉の中心地に戻り、地獄見学。ここには間欠泉があり、数分間隔で盛衰を繰り返している。



旅の終わりに「さざり湯」に入湯した。乳白色の温泉の代名詞、登別温泉に入ること、今回の旅の目的の一つであった。



このあと、千歳に戻りレンタカーを返却。メーターの表示ではリッター 27.5km、距離とガソリン消費量からの手計算でも 27.0km というものすごい燃費。けっこう高速走行もあり、ハイブリッドの特性を活かした運転シーンは少なかったと思うのだが、たいしたものである。

道央3日弾丸旅行記

帰着

新千歳空港から21時05分発のジェットスター便で関西国際空港へ戻る。

ここで到着が遅れピンチに陥る。というのも23時15分関空着という予定そのものが最終電車23:43のぎりぎりのタイムであったからだ。車を関空の駐車場に入れていればこんなことでやきもきする必要も無かったのだが、なにせ車は対岸のりんくうタウンにある。

幸い飛行機の席はかなり前方だったのでターミナルへのバスは1台目に乗れた。出口付近で待機して、到着後ダッシュ。預けた手荷物もないので、どの乗客よりも早く到着ゲートにたどり着き、そのまま電車に。これで発車まで2分程度のゆとりしか無かったので、どこかで引っかけたらアウトだった。

深夜1時帰宅。翌日は普通に出勤したがしんどかった。

了 ご精読感謝

